



JR由比駅ホーム



JR由比駅

新型コロナウイルス感染症は、大都市地域を中心に全国で感染拡大が進行しています。静岡県においても散発的な感染が継続していますが、現在は県民の皆様が一丸となって感染防止に「3密回避」「新しい生活様式の徹底」等に取り組んで頂いております。

公益財団法人しずおか健康長寿財団会員事業「はつらつネットふじのくに」の研修旅行も感染防止を考え、新しい取組として「3密回避」を行い、近場で短時間で行える研修旅行に切り替え、当面県内限定、駅集合・駅解散方式をとり、財団職員が行程の全てで感染防止対策をしっかりと行います。第1回目の新スタートを「東海道由比宿 歴史散歩」と銘打って、地元の魅力再発見の研修旅行をスタートさせました。



参加者への検温



手のアルコール消毒

JR由比駅ホームから降りてきた参加者の皆さんは、財団職員による検温と、手の消毒をしていただき安全・安心を確認して、これから行う東海道由比宿 歴史散歩に参加されます。



出発前の説明



駅前出発

桜エビ、倉沢ピワ、倉沢アジで全国的にも有名な由比は、東海道五十三次の16番目の宿場町で、今日の歴史散歩に胸がワクワクしています。

まずは、しっかりと安全・健康管理面の諸注意事項を聴いてから駅前広場を「いざ出発！」です。



[旧東海道由比宿を歩く](#)

昔の面影が残る旧東海道を薩唾峠方面に向かい歩き続け、目指すは東海道由比宿名主の館「小池邸」です。



[小池邸を目指して](#)



[小池邸前にて](#)



[東海道五十三次由比\(歌川広重\)](#)

名主の館「小池邸」は、由比地区で長年名主を務めた小池家の母屋で、建物の外観には低い軒の瓦葺き、正面の潜り戸付きの大戸、格子等、当時の寺尾地域の民家の面影を残しています。

皆さんが記念写真に納まっているすぐ後ろには、旧東海道が薩唾峠に向かって通っており、旅人の往来で賑わいを見せていたそうです。

東海道五十三次由比の浮世絵(歌川広重)を見てもおわかりになると思いますが、海沿いの切り立った崖が人の通行を阻み、次の興津宿へ向かう旅人は、距離の短い海岸沿いを避け、安心して往来できるルートとして薩唾峠越えの東海道が使われていたとのこと。

現在では由比の海岸線に国道1号線、JR東海道線、東名高速道路が通っており、交通の要所となっています。



[横尾さんから小池邸のお話を聴く](#)



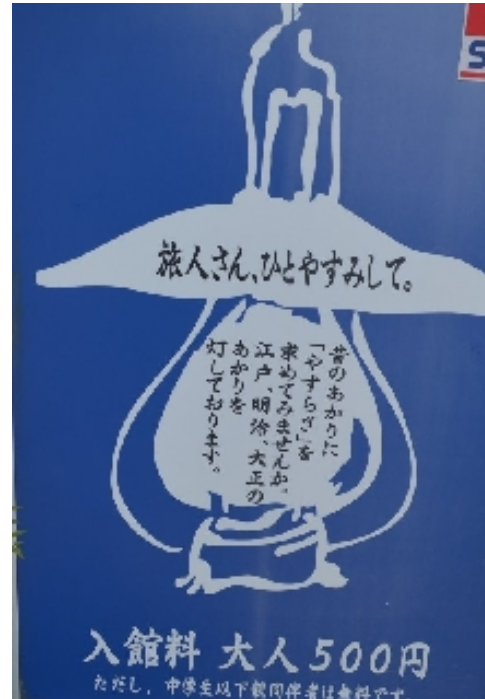
[小池邸内部](#)

小池邸の説明をして下さった係員の横尾さんの話では、現在の小池邸は、明治時代に建てられた東海道名主の館で、江戸期の民家の風情を楽しめる建物として、平成10年に国の登録有形文化財に登録されています。

小池邸は、代々小池文右衛門を襲名し、寺尾村の名主を務めていた邸宅跡。戦国期には甲州武田氏に仕えていたという名門家で、江戸時代になると名主として年貢の徴収や戸籍管理を行っていたそうです。



[あかり博物館へ到着](#)



[あかりの博物館](#)

小池邸を出てすぐ道路左側に「由比東海道あかりの博物館」があります。当博物館は、大正8年に建てられた民家を改装し、昔の灯りから現在の灯りの歴史を知ることが出来、片山館長のご主人が個人的に収集した古灯具を中心にした展示品があり、昔と今の灯りに関する多くの知識を学ぶことができます。

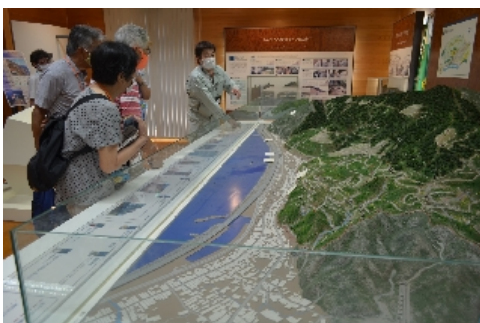


[あかりの博物館内](#)



[火起こし実演](#)

館内に入ると1000点以上の古灯具が展示されており、ほのかに薄暗く温かみのある灯りの下で片山館長さんの説明を聞き、当時をしのぶことが出来ました。写真右は、片山館長さん自らが、火打石を使って火おこしをする実演を見て江戸時代の大変さを実感することが出来ました。



[由比地すべり防止対策の取組を学ぶ](#)



[集水井工の説明](#)

次に向かったところは、由比地すべり管理センターです。静岡市清水区由比地区は、駿河湾と富士山を望む風景の良い宿場町として古くから栄えてきましたが、由比地区の地形は浜石岳から南にのびた庵原山地が駿河湾にせまり、急な斜面と地すべりによってつくられたゆるい斜面とが、海沿いのわずかな平地につながっており、長雨や台風等で江戸時代からおよそ5年に一回の割合で災害が起きています。私の記憶に残っているのは、昭和49年の七夕豪雨による山地崩壊、地すべり、土石流発生による人家7棟全壊、32棟半壊、国鉄・国道埋没災害の歴史です。

国と県は、昭和23年度から平成12年度まで50年以上にわたり地すべり防止工事を実施してきました。由比の地下にはさまざまな防止工事が施されており、自動観測システムが24時間、由比地区の地すべりを見張っています。



[由比地すべり管理センター前にて](#)



[シャフト工\(抑止工\)](#)

由比地すべり管理センター玄関前で全員そろって記念撮影を行った前方には、見学用に設置された大規模な地すべりを止めるための抑止工実物大の杭であるシャフト工(直径4.5m、深さ40~60mものシャフト)を間近に見ることが出来ます。由比地区には、このシャフトが69本も打ち込まれているそうです。

人命を守り交通の要所を守る為に、地すべり防止工法のいろいろ(排土工、立体排水工、集水井工、鋼管杭打工、シャフト工、アンカー工、鋼管土留工)を説明していただき、由比地すべり防止事業のあらましを学ぶことが出来ました。

由比地すべり管理センター職員の皆様有難うございました。

まだまだ、私たちの身近で知らない地域の魅力がたくさん眠っています。いまは大変な時ではありますが、しずおか健康長寿財団では安心・安全を第一に考え県内限定、近場で短時間の研修旅行が計画されています。これからも、いろいろなことを学び心と身体のリフレッシュをしていただきたく、皆様にお勧めしたいと思います。

取材：生きがい特派員 渡邊英機